

第5章 教育内容及び方法

本章では、本学部／大学院（研究科）における教育方針、教育内容と方法、教育に関する支援体制、成績評価と卒業（修了）認定などについて述べる。また、大学院課程では、学位論文に係る指導体制、審査基準、審査体制についても触れる。

5-1. 学部教育課程（学士課程）

5-1-1. 学部における教育方針

（学部の3ポリシー）

本学部の「教育研究の目的」と「人材養成の目的」に基づき、平成21年度に3ポリシー（アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー）を制定し（第1章参照）、学生および学外に対して、「農学部学生便覧」や農学研究科/農学部HPなどで公表・周知を図ってきた。3ポリシーの検証については、毎年、学部教務委員会で議論してきたが、平成29年度入試（平成28年度実施）から、全学科での特色入試の実施を受けて、平成28年度に3ポリシーの大幅な改定作業を行った。なお、新3ポリシーは平成29年度から公表・周知を図ることとなった。

（学部のコースツリー）

これまで、カリキュラム・ポリシーを基に学科別のカリキュラム編成方針を策定し、実際のカリキュラムを作成してきた。カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーと実際のカリキュラムの関係を明確化すべく、平成27年度から学科別のコースツリーを設定し、「農学部学生便覧」などで公表・周知を図っている。

〔分析評〕

本学部における「教育研究の目的」と「人材養成の目的」に沿って、3ポリシーが策定され、策定後も毎年の検証を実施している。さらに、平成29年度から新ポリシーに移行する予定となっている。また、平成27年度には、学科別のコースツリーが策定され、教育方針の明確化も図られている。

〔資料〕

○農学研究科及び農学部における教育研究・人材養成に関する内規 ○農学部アドミッション・ポリシー ○農学部カリキュラム・ポリシー ○農学部ディプロマ・ポリシー
○農学部学生便覧 ○農学研究科／農学部ホームページ

5-1-2. 学部の教育内容と方法

5-1-2-1. 授業科目とその編成

授業科目は、全学共通科目（教養科目）と農学部専門科目に区分され、それぞれ48単

位以上および 84 単位以上の計 132 単位以上の単位を修得することを卒業要件と定めている。また、平成 28 年度からの全学共通科目再編による外国語科目などの単位数変更に伴い、平成 28 年度入学者から、全学共通科目 60 単位以上および農学部専門科目 84 単位以上の計 144 単位以上の単位修得を卒業要件とすることに変更されている。

(全学共通科目とその科目編成)

全学共通科目では、大規模総合大学である京都大学の特長を生かして、広い視野、深い洞察力、豊かな人間性の形成をめざした多種多様な科目が提供されている。

(全学共通科目再編)

全学共通科目は、担当主体の全学組織である国際高等教育院によって再編が行われており、とくに、科目グループ分けの変遷がある。平成 24 年度入学者までは、科目内容によって A 群（人文・社会科学系科目）、B 群（自然科学系科目）、C 群（外国語科目）、D 群（保健体育科目）、EX 群（大学コンソーシアム京都単位互換科目）の 5 群に区分された。また、平成 25 年度以降平成 27 年度までの入学者では、人文・社会科学系科目群（旧 A 群）、自然・応用科学系科目群（主として旧 B 群）、外国語科目群（旧 C 群）、現代社会適応科目群（旧 A、B 群から抜粋）、拡大科目群（旧 D、EX 群に少人数ゼミや国際交流科目等をグループ化）の 5 群に区分された科目編成となった。そして、平成 28 年度入学者から、人文・社会科学科目群、自然科学科目群、外国語科目群、情報学科目群、健康・スポーツ科目群、キャリア形成科目群、統合科学科目群、少人数教育科目群の 8 群に再編されている。本学部では、各入学年度の学生に対して、上記の旧グループ群での基本方針を継続的に適用し、最小限の調整で対応している。

平成 28 年度の全学共通科目再編の主要な改正点は、以下の通りである。

1) 科目群の再編

科目群が 8 群（①人文・社会科学科目群、②自然科学科目群、③外国語科目群、④情報学科目群、⑤健康・スポーツ科目群、⑥キャリア形成科目群、⑦統合科学科目群、⑧少人数教育科目群）に再編された。

2) 外国語科目群の単位数変更

全ての外国語科目の単位数が 1 単位から 2 単位に改定された。

3) E 科目の新設

学生の英語によるコミュニケーション能力の向上と国際性の涵養を図るため、E 科目が新設された。E 科目は、E1：英語テキストの講読を中心的な内容とする科目、E2：英語を使用言語として実施される科目、E3：英語スキルの向上を目的とする科目の 3 つのカテゴリーに区分される。本科目は外国語として「英語を学ぶ」だけでなく、英語力を一層向上させ、国際的な学問研究や社会の様々な分野で活躍することにつながるものと考えられる。

(農学部専門科目とその科目編成)

農学部専門科目では、農学に関連する学識の修得、および各学科別の専門性を深めるための科目を多岐にわたって提供している。平成 27 年度から学科別にコースツリーが整備され、それに基づいた 4 年一貫体制のカリキュラムの編成が行われている。1、2 年次には、主に専門への導入を意図した基礎的な科目を配置している。また、学科横断型の科目として、農学概論 I および農学概論 II を配置し、本学部が対象とする研究領域を俯瞰できるよう意図されている。また、語学力養成のために、必修の科学英語にネイティブスピーカー教員を配置し、受講者数も絞り内容の充実を図っている（本学部の科学英語については、全学共通科目の英語科目の充実化により、平成 29 年度から、全学共通科目の E 科目へ振り替える予定である）。2、3 年次には、専門を深く学ぶための講義、実験、実習（フィールド実習を含む）を提供している（とくに 2 年次には、学科内横断型の科目を配置している）。4 年次には、主に課題研究（卒業研究）に取り組ませている。課題研究は必修でない学科があるものの、履修の推奨に努めているため、大多数の 4 回生が履修している（課題研究では専門知識を深めることは当然のことながら、教員、院生、同級生との密接なコミュニケーションの形成と相互指導の実現にも配慮している）。平成 28 年度からの全学共通科目の大幅再編にともない、農学部専門科目の時間割も見直され、各学科で科目編成の見直しや科目のナンバリングなども検討中である。

(資格取得のための科目編成)

教職を志す学生に対しては、学科別に、中学校、高等学校の各種教員免状取得を目的とする科目編成を行っている。これ以外に、食品衛生管理者・食品衛生監視員の資格取得、測量士補および測量士の資格取得、施工技術検定規則による 1 級・2 級技術検定の受験資格の取得、樹木医補資格の認定のための科目編成も行っている。

[分析評]

卒業要件として、全体の 1/3 程度の全学共通科目（教養科目）の単位取得を求めており、幅広く深い教養および総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養することを配慮したバランスのとれた科目配置である。農学部専門科目の授業科目の編成は、学科別のコースツリーにしたがい、基礎からより専門的な内容へと段階的に理解が進むように編成されており、とくに 3 年次以降、実習、実験、ゼミなどを充実させて農学の理解を深めることに大きな配慮が払われている点は高く評価できる。全体として、カリキュラム・ポリシーに沿って、農学に関連した幅広い分野の学問と知識をカバーした多岐にわたる内容の授業の提供を実現している。

[資料]

○平成 28 年度学年暦 ○全学共通科目授業内容 ○農学部学生便覧（科目担当表等）

○授業時間割表

5-1-2-2. 授業内容への最新の研究成果の取り込み

(教育と研究の一体化)

本学では、伝統的に教育と研究を一体的に進める「教育と研究の有機的連関」を重要視している。教員は本研究科／学部の教育研究の目的にしたがって、「生命現象の解明」、「生物資源の利用」、「環境保全」などをキーワードとする研究に取り組んでいる一方、これらのキーワードに関連した授業も提供している。本学部の授業科目の内容は、各研究分野の研究成果をふまえた教科書、あるいは教員が独自に作成する資料に基づいたものであり、授業内容が陳腐化することのないように、常に最新の研究成果を取り入れることに留意している。

(学外非常勤講師科目の設定)

授業科目の多様化の観点から、予算面で学外非常勤講師枠の減少という状況下ではあるものの、非常勤講師科目を設定し、専任教員に準じる高い水準の研究者を招き、同科目の担当を依頼している。また、学外の研究機関・企業などの研究者に機会あるごとに講演などを依頼し、社会の実践的研究成果も学生に提供できるよう心がけている。

[分析評]

授業内容は、本学の伝統に基づき、自然科学あるいは社会科学の各学問領域における研究成果を有機的に連関させ、適切に構成されている。

[資料]

○農学部学生便覧（非常勤講師一覧等）

5-1-2-3. 学生の科目履修

(学生の科目選択)

学生には、全学共通科目、専門科目ともに、多様な授業科目が提供されており、各々の興味に応じた科目選択が可能な高い自由度が与えられている。また、知識のさらなる拡充を目的とする他学部の専門科目の履修も基本的には認められており、卒業に必要な単位として認定される場合もある。さらに、大学間・部局間学生交流協定による海外留学では、留学先で履修した科目の単位について、内容の審査を経て既修得単位として認める制度も設けている。学科によっては、社会との連携重視、学生の就業支援の観点から、インターンシップの単位認定も行っている。また、学生が自らの適正判断に基づく修学コースの変更希望に対応すべく、転学部・転学科制度も設けている（第4章参照）。ただし、当該学部・学科で審査を行い、受入れが妥当と認められた場合に限る。

(学生の要望に対する対応)

科目の編成や各授業科目における学生の要望の把握は、授業評価アンケートなどにより行っている(第6章参照)。アンケート結果は学部教務委員会とFD委員会で報告し、その検証を行っている。

[分析評]

学生の要望に配慮した科目の編成が適切に行われている。

[資料]

○全学共通科目授業内容 ○農学部学生便覧(教育職員免許状取得のための教科に関する科目等) ○転学科・転学部等についての申合せ

5-1-3. 学部の教育に関する支援体制

(授業科目の時間数)

本学では、平成25年度から講義について半期15回の授業(フィードバック期間を含む)を確保する学年暦が導入され、各授業科目のシラバスにより周知を図っている。

5-1-3-1. 京都大学教務システム(KULASIS)

本学の教務関係電子システム(京都大学教務システム(KULASIS))は、学生の履修登録、学生への教務連絡(開講通知、休講通知など)、学生への各種情報(シラバス、オフィスアワーなど)提供、および教員の授業科目管理などに利用されている。

(シラバス)

全学共通科目および農学部専門科目ともに、全学の標準モデル様式(授業名、担当教員名、目的、授業内容、成績評価方法、教科書、参考書、履修条件、オフィスアワーの設定状況、連絡先等を記載)を採用し、KULASISを通じて学生に公表・通知している。シラバスでは、学生の授業時間外の学習のための指針の提供も行っている。専門科目のシラバスについて、平成26年度開講科目から、学生への公表前にFD委員会で標準モデル様式との適合性などの確認を行っている。また、学期終了後に実施する授業評価アンケートにより、シラバスに対する理解度、シラバスに基づいた授業の展開、シラバスの有効性などを検証している(第6章参照)。

(オフィスアワーなど)

学生に対して、KULASISを通じて授業担当教員のオフィスアワーや連絡先メールアドレスを公表しており、自主学習のために教員と連絡をとることが可能になっている。

5-1-3-2. 学習支援システム(PandA)

双方向型の学習支援システムとして、PandA(People and Academe)が整備されている。

本システムでは、「授業資料提出」「課題の提出、採点、返却」「小テストの実施」「掲示板のディスカッション」「学生への連絡」などの機能があり、学生の学習支援に用いられている（一部の機能は、前述の KULASIS の授業サポート機能でも提供されているが、データ容量の制限の緩和など性能面・機能面でもかなりの強化が図られている）。

[分析評]

教務関係の電子システムが整備され、教育活動に有効に活用されている。また、適切にシラバス作成が行われ、学生に提供されている。

[資料]

○KULASIS 関係資料 ○シラバス例

5-1-3-3. 自主学習に対する組織的配慮

本学部では「単位の実質化」を目指し、学生の自主学習を促すため、種々の取り組みを行っている（第7章 7-2-1. 参照のこと）。

(1) インターネット環境の整備

本学部内にサテライト室（PC 端末：57 台設置）と学内無線 LAN システムを整備しており、学生が資料検索などに利用できる体制を取っている（全学生に学術情報メディアセンターからアカウントが与えられている）。

(2) 自習室の設置

学部自習室 2 室、および学科別の自習室・演習室を設置している。とくに、試験期間中には学部自習室 1 室の開室時間延長などの措置を行っている。

(3) 農学部図書室（第8章参照）

図書室に閲覧室（110 席）を設け、開室時間を午後 8 時までの体制として授業外学習の支援を行っている。

[資料]

○農学部学生便覧

5-1-3-4. 学生への教務関連の支援体制

(学部教務掛における相談)

学部教務掛では、学生からの各種相談に随時対応し、適宜、学科長、担当教員などと情報共有の上、必要な対策を講じている。

(成績不振学生への支援)

学部教務掛では、学部教務委員会で制定した成績基準（学年別の取得単位数による基準）を下回る学生を成績不振学生として抽出し、当該学生所属の学科に対応を依頼して

いる。当該学科では、個人面談（場合によって保護者面談も含む）などを実施し、個別の履修・生活指導を行っている。

（学生相談室）

本学部の組織的取り組みとして、従来から学生相談室を設置し、学生の心の問題の相談などに応じている。たとえば、医学専門家による適切な医療機関の紹介なども行っている。

〔分析評〕

学生の自主学習を支援するためのハード面はかなり整備されている。一方、学生の基礎学力不足対応については、教員の中・高等教育のカリキュラムに由来する問題点への認識が進み、個々の事例への取組みは前進したが、今後より包括的な組織対応の検討が不可欠であると認識している。

〔資料〕

○成績不振学生の判定基準

5-1-4. 授業形態と学習指導法など

1、2年次の全学共通科目、学部専門基礎科目では、講義形式で行う授業が大部分であるが、3年次ではより高度な専門科目を講義形式で学びながら、学んだ内容を実験や実習における体験を通じて理解するために多くの時間が割かれる。全ての講義室にはAV設備が整備され、内容を視覚や聴覚に訴えながら効果的に示すことが可能である。また実験・実習のための設備の充実も図られ、TA（大学院生）が活用され、手厚い指導が行われている。4年次は大部分の学生が分野（研究室）に所属し、所属の分野で課題研究（卒業研究）を遂行しながら、教員、大学院生、同級生との密接なコミュニケーションを通じ相互に研鑽して専門知識と研究者倫理の理解を深めている。

〔分析評〕

講義形式の授業と実験・実習が学年進行を考慮してバランスよく組み合わせられ、それぞれの学科の教育内容を深く理解できるように編成されている。理解度の向上と対話の促進をめざした少人数授業をカリキュラム・ポリシーに掲げているが、学科単位の講義や実験・実習が中心になる3年次以降ではそのポリシーが実現できており、効果的な教育を実施できている。

〔資料〕

○授業時間割 ○農学部学生便覧 ○講義室設備一覧

5-1-5. 成績評価と卒業認定

5-1-5-1. 成績評価と卒業認定の基準

本学部では、成績評価の基準について内規が制定されている。その基準は、「農学部学生便覧」に掲載し、学生に公表・周知を図っている。平成 26 年度入学者までは、4 段階評価方式（合格：優（80 点以上）、良（70 点以上 80 点未満）、可（60 点以上 70 点未満）、不合格：60 点未満）と 2 段階評価方式（合格と不合格）（ただし、2 段階評価は、課題研究と特別実地研修の 2 科目のみ適用）の併用であったが、平成 27 年度入学者から 6 段階評価方式（合格：A+（96 点以上）、A（85 点以上 95 点以下）、B（75 点以上 84 点以下）、C（65 点以上 74 点以下）、D（60 点以上 64 点以下）、不合格：0～59 点未満）と従来の 2 段階評価方式の併用に変更され、きめ細かな成績評価体制に移行している。また、素点による評価も実施されている。平成 28 年度入学者からは、GPA（Grade Point Average）制度が導入され、6 段階評価方式の授業科目は、GPA 算入科目となっている。一方、卒業認定の基準（卒業要件；卒業に必要な科目および単位数）についても同様に内規が制定され、「農学部学生便覧」により学生に公表・周知を図っている。

[分析評]

成績評価基準や卒業認定基準が制定され、学生に周知されている。

[資料]

○農学部学生便覧（農学部規程） ○大学院科目及び学部専門科目の成績の評価基準、表示及び証明に関する内規

5-1-5-2. 成績評価（単位認定）と卒業認定

授業科目の成績評価および単位認定は、シラバスに記載された方法と基準に基づき、担当教員が適正に行っている。自学自習を前提とする講義科目については、科目の難易度により若干の差異はあるものの、シラバスに記載された評価方法により真摯に評価されている。参考のため、〈表 5-1, 表 5-2〉に平成 28 年度の成績評価別分布表を示す。一方、卒業認定については、各学科の教授会で学生が修得した科目および単位数を卒業要件と照らし合わせて審査の上、学士試験合格候補者を決定し、最終的に学部教授会において学士試験合格者を決定している。

[分析評]

個々の科目の成績評価、単位認定については担当教員の裁量に負うところが多いが、概ね適切に評価・認定が行われている。卒業認定については、基準が明確に示されており（農学部規程）、同基準に従って組織的に実施されている。

[資料]

○農学部学生便覧 ○シラバス例

5-1-5-3. 公正な成績評価を担保するための措置

各授業科目の成績評価方法のシラバスへの明記、および平成 26 年度から導入された学生の成績評価への異議申し立て制度などによって、成績評価の公平性・妥当性を担保している（異議申し立て制度実績、H26 年度：46 件、H27 年度：52 件、H28 年度：37 件）。また、2 段階評価方式を採用している課題研究（卒業研究）については、一部の学科を除いて、学科全体で発表会を行い、評価の妥当性を担保している。

[分析評]

公正な成績評価は個々の教員に委ねられているところが多いが、制度として整備されシラバスにも評価基準などが明記されており、公正な成績評価を担保するための措置は講じられている。

[資料]

○農学部学生便覧 ○シラバス例 ○大学院科目及び学部専門科目の成績の評価基準、表示及び証明に関する内規

5-2. 大学院教育課程（修士課程および博士後期課程）

5-2-1. 大学院における教育方針

（大学院の 3 ポリシー）

本研究科の「教育研究の目的」と「人材養成の目的」に基づき、平成 21 年度に 3 ポリシー（アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーを制定し（第 1 章参照）、学生および学外に対して、「農学研究科学修要覧」や農学研究科/農学部 HP など公表・周知を図った。3 ポリシーの検証については、毎年、研究科教務委員会で議論し、平成 25 年度に追加改正（学位論文の審査基準の明記、副指導教員制度の導入）を実施した。平成 28 年度に、学部の 3 ポリシーの大幅な改定作業とともに、大学院のアドミッション・ポリシーのみの見直し作業も行われた。なお、大学院の新アドミッション・ポリシーは、平成 29 年度から公表・周知を図る予定である。

（大学院のコースツリー）

学部のコースツリー導入と並行して、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーと実際のカリキュラムの関係を明確化すべく、平成 27 年度から、専攻別のコースツリーを設定し、「農学研究科学修要覧」などで公表・周知を図っている。

[分析評]

「農学研究科及び農学部における教育研究・人材養成の目的」に沿って、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーが策定され、学生、学外に向けての公表も適切に行

われており、ポリシーの検証ならびに必要な改正も適宜行われている。

[資料]

- 農学研究科及び農学部における教育研究・人材養成に関する内規
- 農学研究科カリキュラム・ポリシー
- 農学研究科ディプロマ・ポリシー
- 農学研究科学修要覧
- 農学研究科／農学部ホームページ

5-2-2. 教育内容と方法

5-2-2-1. 授業科目とその編成

(修士課程)

修士課程における修了要件は、専攻科目 30 単位以上を修得し、修士論文の審査に合格することと定められている。専攻科目は、基本的に専門科目（講義形式）、演習および専攻実験より構成され、修了要件 30 単位のうち 18 単位が専攻実験と演習で占められている（なお、生物資源経済学専攻のみ専攻実験の設定はなく、演習に 8 単位が当てられている）。専門科目（講義形式）では、各専門種目を担当する分野に関連する研究領域の概観と、最新の研究成果や動向が講じられる。演習では、各自の専攻実験・論文研究に関連する研究の動向、実験の進捗と方向性などを発表し議論する。これにより、研究者としての基本姿勢（研究者倫理も含む）やプレゼンテーション技術の修得を行わせている。全専攻において、修士論文の作成が重視されており、指導教員とのマンツーマン体制により研究が進められている。なお、平成 26 年度から副指導教員制度も導入され、より幅広い研究指導体制が整備されている。

(博士後期課程)

博士後期課程では授業科目の配当は行わず、指導教員との緊密な研究指導のもと、研究を展開し、博士論文の作成に専念させている。ここでは、学識と研究者倫理を深めさせ、研究者としての基礎を築くことに主眼を置いている。なお、博士後期課程にも副指導教員制度を導入している。

(研究者倫理科目の設置)

研究者倫理に関する研究科共通科目として、新入生（修士課程、博士後期課程）向けに、平成 27 年度から新科目「農学研究者の倫理」を設けており、ほとんどの修士課程入学者および博士後期課程編入学者が履修している。

(対面型チュートリアルの実施)

研究不正防止のため、京都大学研究公正推進アクションプランに基づき、平成 27 年度から修士・博士論文作成前に、指導教員による対面型チュートリアルを実施している。

(英語講義)

農学特別コースの設置と関連して、英語講義の提供も行っている。本講義は、日本人学生の受講も可能である。

[分析評]

先端的な課題を設定して研究に取り組み、論文を作成することを特に重視し、それによって問題解決能力や論理的な思考法を養うことは、高度な専門知識と研究技術を習得した教育・研究者、企業・公的機関における専門技術者、行政担当・政策立案者を養成するという本研究科の人材養成目的に適った教育内容である。また、各分野が提供する専門科目と演習によって、関連する研究分野の動向や最新情報を得ながら学識を深めることが可能であり、教育課程は目的とする人材養成のために体系的に編成されている。

[資料]

○農学研究科学修要覧（修了要件、科目配当表）

5-2-2-2. 授業内容への最新の研究成果の取り込み

正規の専門科目（講義形式）で、各専門種目を担当する分野に関連する研究領域の概観と最新の成果や動向が講じられている以外に、最先端の研究動向を学ぶことを目的に、学外から講師（招へい外国人研究者を含む）を招き、特別講演や集中講義などを多数開設している。

[分析評]

学生は教員とともに、研究の第一線で研究活動を行っている。そのため、最新の研究成果や研究動向の把握は必要不可欠であり、それらを学ぶための多様な機会を提供していることは評価できる。

[資料]

○農学研究科学修要覧（科目配当表）

5-2-2-3. 学生の教育研究指導体制

本研究科における学修では、各学生に指導教員を定めている。通常、指導教員は各専門種目担当の教授を充当しているが、教授不在の場合、あるいは学生の志望する研究分野の専門性を考慮する場合に、専攻教授会の承認を経て、准教授あるいは講師を指導教員に充当する場合がある。なお、平成26年度から副指導教員制度を導入し、各学生に対して、主指導教員に加えて副指導教員を定め、より手厚い指導体制となっている。また、専攻によっては社会との連携重視、学生の就業支援の観点から、インターンシップの単位認定も行っている。

(学生の要望に対する対応)

指導教員(主指導教員、副指導教員)はマンツーマンの対話と討論に基づいて、研究課題の遂行を行っているが、その際、学生の要望への配慮にも努めている。また、本研究科の研究や教育に関する学生の意見を聴取するため、平成22年度から、修了時アンケートを実施している(第6章参照)。そこでの意見は、研究科教務委員会で報告、適宜、対応策を策定している。

[分析評]

教育研究指導体制は整備されており、各指導教員の研究指針に基づいて研究指導が適切に行われている。

[資料]

○平成28年度大学院生指導教員一覧 ○農学研究科学修要覧(教員一覧) ○修了時アンケート用紙

5-2-3. 大学院の教育に関する支援体制

(授業科目の時間数)

学部の場合と同様、大学院でも、平成25年度から講義について半期15回の授業(フィードバック期間を含む)を確保する学年暦が導入され、各授業科目のシラバスにより周知を図っている。

5-2-3-1. 京都大学教務システム(KULASIS)

大学院の教育においても、学部教育と同様に教務システム(KULASIS)が活用されている。(シラバス)

大学院の授業科目も、平成25年度から学部の授業科目と同様に全学の標準モデルのシラバスの様式を採用し、KULASISを通じて学生に公表・通知を行っている。また、平成26年度から、シラバスに対する理解度、シラバスに基づいた授業の展開、シラバスの有効性などを検証するための授業評価アンケートの実施体制を整備している(第6章参照)。なお、シラバスの検証は、学部の専門科目と同様に、FD委員会が担当している。

[分析評]

KULASISが整備され、教育活動に有効に活用されている。また、専門科目(講義形式)については、適切なシラバスが作成、活用されている。演習や専攻実験については、特定の学生を対象としている場合が多く、研究の進展などにより内容も変化することもあり、あらかじめ、シラバスで内容を明示することには困難な場合もある。

[資料]

5-2-3-2. 学生の自主学習や主体的な研究活動への組織的配慮

本研究科では、「単位の実質化」を目指し、学生の自主学習、およびその研究活動を促すため、種々の取り組みを行っている。

(1) 学生の分野（研究室）への分属：学生は分野（研究室）に配属され、自主学習、研究活動のための個人スペース、自由なネットワーク接続環境が与えられる。

(2) 指導教員制度：学生には、マンツーマンの討論を重視した研究指導を通じて常に積極的な自学自習を促し、努力を求めている。また、副指導教員制度の導入により、手厚い指導体制としている。

(3) TA 制度：大学院生に学部学生の教育機会を与えることにより、各自の知識の再構成、あるいは新たな課題の発見に繋がる場となることを想定している。なお、この制度では雇用関係が発生することから、平成 26 年度から雇用前の TA ガイダンスの受講の義務化を行っている。

(4) 期間短縮制度：修士課程、および博士後期課程において、とくに優れた業績を挙げた者について期間短縮修了の制度（飛び級の制度）を設けている。平成 28 年度に博士後期課程の学生 1 名が本制度により半年の期間短縮で学位を授与された。

[分析評]

本学の「自学自習」の精神に沿って、学生の自主学習や主体的な研究活動を促すべく、種々の方策を講じており、学生の自主学習や主体的な研究活動の機会は十分に保証されている。

[資料]

○平成 28 年度学年暦 ○大学院農学研究科修士課程修了要件の在学期間の特例に関する取扱要領 ○大学院農学研究科博士後期課程修了要件の在学期間の特例に関する取扱要領

5-2-4. 課程の実施形態と指導法など

修士課程、博士後期課程とも学位論文作成のための研究指導がもっとも重視されており、学生はそれぞれ設定したテーマに基づく研究に大部分の時間を割いている。本研究科の使命として、リサーチワークを重視した教育形態をとっている。生物資源経済学専攻を除く 6 専攻では、修士課程における修了要件 30 単位のうち 18 単位が、この研究を遂行するために必要な基盤的コースワークである実験あるいは調査と演習で占める（実験・実習の重視はカリキュラム・ポリシーにも明記されている）。これに加えて、修了には講義形式の授業による単位を少なくとも 12 単位取得する必要がある。生物資源経済学専攻では、修了要件は同じく 30 単位であるが、演習に 8 単位があてられ、他は講義科目

で取得することが求められている。なお、修士論文（必修）に対して厳格な審査はあるが、単位は付与していない。

博士後期課程では専ら論文作成に取り組むため授業科目を設けてないが、各分野の演習に参加し、内容に関する討論や議論で中心的な役割を果たすことが多い。TAとして採用されるケースも多く、学部・修士学生を教えることによって修養を積む機会がある。さらに、学外講師による特別講義や集中講義の積極的な聴講を促し、最先端の学術動向に触れる機会を与えている。

専攻実験と論文作成のための研究指導の過程では、新規な知見を得て成果を上げるために情報の収集、実験法の改良や新技術の導入、他研究機関との連携、共同研究など、考えられる限りの工夫が行われている。研究内容の演習での発表はもちろん、学会などでの発表を奨励し、その機会に論理を整理し、客観的な評価を受けて新たな問題点を発見できるようにするなどの工夫もなされる。自習のためのインターネットを通じた情報へのアクセスは自在に行うことができ、電子ジャーナルやデータベースに大きな経費をかけて学術文献の収集・充実にも努めている(第8章参照)。海外を含めた他研究機関との交流や情報交換を実現すべく遠隔講義室も設置されている。

[分析評]

研究指導を重視しながらも、講義や演習、さらには特別講演の開催などで研究テーマに関連する広い領域の専門知識を習得させておりバランスは適切である。学習指導法に関する工夫も十分なされている。実際に、修了者アンケート結果の教育関係の項目を見ても、「十分に満足している」+「満足している」の割合が約8割となっている(第6章参照)。

[資料]

○農学研究科学修要覧（科目配当表）

5-2-5. 成績評価と修了認定

5-2-5-1. 成績評価と修了認定の基準

本研究科では、大学院の成績評価の基準について、内規が制定されている。その基準は、「農学研究科学修要覧」に掲載し、学生に公表・周知を図っている。大学院の成績評価では、従来通り、4段階評価方式（合格：優（80点以上）、良（70点以上80点未満）、可（60点以上70点未満）、不合格：60点未満）と2段階評価方式（合格と不合格）（ただし、2段階評価は修士論文に適用）の併用である。なお、実際の成績の入力は、素点による評価を行っており、GPA制度に対応可能としている。また、修了認定の基準（修了要件；修了に必要な科目および単位数）も、同様に内規が制定され、「農学研究科学修要覧」により、学生に公表・周知を図っている。

[分析評]

成績評価基準や修了認定基準が制定され、学生に周知されている。

[資料]

○農学研究科学修要覧（農学研究科規程） ○大学院科目及び学部専門科目の成績の評価基準、表示及び証明に関する内規

5-2-5-2. 成績評価（単位認定）と修了認定

修士課程における修了要件は、専攻科目 30 単位以上を修得し、修士論文の審査に合格することと定められている。授業科目の成績評価、単位認定は、シラバスに記載された方法と基準に基づき、担当教員が適正に行っている。修了認定は、各専攻の教授会で学生が修得した科目および単位数を修了要件と照らし合わせて審査し修士試験合格候補者を決定して、最終的に研究科会議において、修士合格者を決定している。また、博士後期課程では、3 年間の研究指導を受け、博士論文の審査に合格することにより修了が認定されている。

[分析評]

成績評価（単位認定）、修了認定の基準は組織として策定され、学生に公表、周知されている。また、成績評価（単位認定）、修了認定ともに、適切に実施されている。

[資料]

○農学研究科学修要覧・シラバス（修了要件）

5-2-5-3. 学位論文の評価基準

大学院の修士論文および博士論文の審査基準は、ディプロマ・ポリシーに明記されている（第 1 章参照）。

（博士論文の場合）

「博士論文の審査および試験は、上記の目安を勘案し、その論文が学術的意義、新規性、創造性、応用的価値を有していることと、学位申請者が研究の企画推進能力、研究成果の論理的説明力、研究分野に関連する幅広い専門的知識、高い倫理性などを有していることを複数の審査員により審査する。」

博士論文の評価基準について、生物資源経済学専攻では評価基準が専攻教授会で策定、明文化され、学生にも周知されている。それ以外の専攻では、教授間の申し合わせで概略の評価基準が専攻内で共有されているものの、評価基準は明文化されていない。現在でも、「博士論文の評価は、当該研究の背景や特徴に配慮しながら、論文の新規性、独創性、学術の発展への寄与などを考慮して行うべきである」という意見が主流であり、組織としての基準の策定は最小限に留めている。

[分析評]

詳細な審査基準ではないものの、学位論文審査基準が策定され、ディプロマ・ポリシーとして、学生に公表・周知されている。学位審査は複数の教員により、各研究領域の独自性に配慮しながら、論文内容の実質的な評価に努めており、現行の審査基準による不都合は生じていない。

[資料]

○農学研究科ディプロマ・ポリシー ○生物資源経済学専攻の学位論文評価基準

5-2-5-4. 学位論文の審査体制

修士学位論文審査では、各論文につき調査委員3名を選定し、審査を実施している。修士論文は、各専攻で開催される発表会（原則公開）などで内容が吟味された後、その可否は、専攻の判定会議および研究科会議の審議を経て最終決定される。

博士学位論文審査では、各専攻で予備審査が実施される。予備審査は論文内容の口頭発表（学位申請講演会；原則公開）と予備調査委員などによる質疑応答により行われ、論文提出の可否が審議される。論文提出が認められた場合、研究科会議において論文調査委員（主査1名および副査2名）が決定され、調査委員は論文の審査および関連学問分野の学力試問にあたる。これらの審査結果は調査委員から研究科会議に報告され、報告を受けた会議構成員の投票により学位授与が決定される。なお、受理された学位論文は京都大学学術情報リポジトリで公開される。

[分析評]

学位論文の申請は、公開された予備審査により可否が決定され、申請後は研究科会議で承認された調査委員により論文審査が行われ、研究科会議において投票により学位授与の可否が決定されており、学位論文取扱内規に則した適切な審査体制が整備されている。

[資料]

○博士学位論文取扱内規 ○博士学位論文審査願出・博士学位申請手続について

5-2-5-5. 公正な成績評価を担保するための措置

学部の場合と同様に、各授業科目の成績評価方法のシラバスへの明記、および平成26年度から導入された学生の成績評価への異議申し立て制度などによって、公正な成績評価を担保している（異議申し立て制度実績、H26年度：0件、H27年度：0件、H28年度：1件）。大学院の授業科目に関しては、少人数で実施されている場合が多いので、成績評価について疑問がある場合には、直接、学生が担当教員に申し出る機会も十分にある。修士論文および学位論文の審査については、修士論文発表会や学位申請講演会における内容の公開を通じて、評価の妥当性が担保されている。

[分析評]

公正な成績評価は個々の教員に委ねられているところが大きいですが、制度としても整備されシラバスにも評価基準などが明記されており、公正な成績評価を担保する措置は講じられている。また、大学院では教員と学生間に円滑なコミュニケーション関係が築かれている場合が多く、直接対話も制度の補完機能を果たしている。

[資料]

○農学研究科学修要覧 ○シラバス例 ○大学院科目及び学部専門科目の成績の評価基準、表示及び証明に関する内規

5-3. 前回の外部評価における主なご指摘とその対応

○カリキュラム・ポリシーが不明瞭である。修士課程では定員増、社会要請への対応を目指して格段に有機的なカリキュラム改革が望まれる。

◎学部：平成 29 年度に新カリキュラム・ポリシーに移行する予定である。

◎大学院：現時点では、カリキュラム・ポリシーの改定を見送っているが、大学院の入学定員の変更（修士課程学生の定員増）が行われたことから、カリキュラム・ポリシー、およびそのポリシーに沿ったカリキュラム改革を検討していきたいと考えている。

○単位の実質化が進んでいないことが問題である。

◎学部：コースツリー、科目ナンバリング制によるシラバスの検索機能を強化するとともに、授業評価アンケートによりそれらの検証・見直しを行い、単位の実質化に向けた取組みを推進する。

◎大学院：学生の自主的な勉学・研究意欲を引き出すために従来から国内外での学会、学術集会での発表を積極的に推奨してきた。特に海外学術集会での発表には平成 18 年度から旅費の補助を研究科が行っており、今後も継続する予定である。

○PandA の利用を促進し、学生中心の双方向型授業を増やすべきである。

◎PandA に対する教員の認知度が低く、その利用率はあまり高くないのが現状である。PandA は、時代に合った有効な学習支援ツールであるので、今後、認知度を向上させ、利用を促進していく予定である。

○学部の成績評価は、全体の成績を俯瞰すると、講義科目でも、優 97%から優 10%前後の科目があり、各科目の到達点は明確になっているか？の点が心配である。そこで、各科目の到達点が、カリキュラムとディプロマ・ポリシーと整合しているか？について再検討することを望む。また、各ポリシーについては、専攻、あるいは研究グループで、具体的に意識を共有することが重要である。

◎学部・大学院：個々の科目の成績評価、単位認定については担当教員の裁量に負うところが多く、今のところ、学部（あるいは学科）や研究科（あるいは専攻）として、科目の到達点について議論をしていない。今後、ポリシーとの整合性については検討の余地があると考えている。平成 28 年度の学部のポリシーの改定作業が行われたが、その際、専攻、学科、研究グループで、ポリシーの再認識が実質的に行われている。

○実習・実験・ゼミなどの充実、社会連携、インターンシップの単位認定などの各種改善の取組みを高く評価する。大学と京都府で「連携講座」開講もおもしろいのではないか。

◎本研究科／学部が取り扱う「農学」は、非常に範囲が広く、対象の絞り込みが必要であるが、お話があれば、「連携講座」について検討したいと考えている。

○修了者アンケート結果は、数値的に掲載されているが、理由などの質的内容が掲載されていると、評価しやすく、また、改善にも繋がると思われる。

◎大学院：修了者アンケートにおいて、自由記述方式の設問を設けることを検討したいと考えている。

○博士後期課程においては、自らが取り組むテーマと今後の進むべき方向とを深く考えるために適切な教養科目と倫理科目を設定することが望ましい。

◎大学院：倫理科目については、研究倫理に関する研究科共通科目として、「農学研究者の倫理」を設定しており、ほとんどの修士課程入学者、および博士後期課程編入学者が履修している。教養科目については、博士後期課程の学生を博士論文作成のための研究活動に専念させるため、とくには設定していない。

○博士後期課程において、最高位の人材を育成するために、修士課程の学生にとって、魅力あるディプロマ・ポリシーとそれに向けた実践的教育が非常に重要である。

◎博士後期課程学生の充足率が、依然として低迷している現状を考えれば、ディプロマ・ポリシーの改定を含めた魅力ある教育体制の整備は必要とは考えている。

〈表 5-1〉 平成 28 年度 成績評価別分布表（課題研究除く・平成 26 年度以前入学者）

科目名	科目区分	優 (%)	良 (%)	可 (%)	合格 (%)	不合格 (%)	履修取消 (%)	履修者 数
遺伝学 I	講義		8.0	20.0		72.0		25
海洋環境微生物学 II	講義	19.2	26.9	7.7		46.2		26
生物生産工学演習	演習	72.2	22.2	5.6		0.0		18
農学概論 I	講義			25.0		75.0		4
農学概論 II	講義		12.5	18.8		65.6	3.1	32
職業指導（農業）	講義	100.0				0.0		3
細胞生物学 I	講義	8.3	25.0	8.3		58.3		12
細胞生物学 II	講義	30.8	23.1	15.4		30.8		13
細胞生物学 III	講義	5.0	35.0	20.0		35.0	5.0	20
バイオインフォマティクス	講義	34.3	5.7	14.3		45.7		35
資源生物科学基礎	講義	14.3	28.6			57.1		7
大気環境学	講義	10.0	20.0	20.0		50.0		10
生物統計学	講義	28.6	28.6			42.9		7
資源生物科学概論 A	講義		22.2	33.3		44.4		9
資源生物科学概論 B	講義	16.7		16.7		66.7		6
生態学	講義	27.8		22.2		44.4	5.6	18
動物生理学	講義		25.0	33.3		41.7		12
微生物学	講義	25.0		12.5		62.5		8
植物生理学 I	講義	12.5				75.0	12.5	8
土壌学 I	講義	12.5	8.9	14.3		57.1	7.1	56
海洋動物学	講義	63.0	7.4			29.6		27
栽培植物起源学	講義	35.5	19.4	12.9		29.0	3.2	31
植物生理学 II	講義	80.6	4.5			13.4	1.5	67
作物学 I	講義	17.9	17.9	21.4		41.1	1.8	56
育種学 I	講義	28.8	9.6	28.8		28.8	3.8	52
蔬菜園芸学	講義	17.6	19.1	39.7		23.5		68
果樹園芸学 I	講義	16.4	6.6	37.7		39.3		61
植物生産管理学	講義	38.1	38.1	14.3		4.8	4.8	21
栽培システム学 I	講義	77.3	4.5	9.1		9.1		22
品質科学	講義	16.4	14.8	24.6		42.6	1.6	61
動物遺伝育種学	講義	25.9	29.6	25.9		14.8	3.7	27
動物生殖学	講義	15.6	9.4	25.0		43.8	6.3	32
動物栄養学	講義	53.8		20.5		23.1	2.6	39
動物生体機構学	講義	6.5	22.6	29.0		41.9		31
資源動物生産学	講義	69.0	10.3	3.4		17.2		29
海洋生物生態学	講義	45.0	28.3	11.7		15.0		60
海洋微生物学 I	講義	11.4	13.6	22.7		50.0	2.3	44
海洋生物資源利用学	講義	26.0	18.0	14.0		36.0	6.0	50
雑草学 I	講義	38.2	5.9	29.4		23.5	2.9	34
植物病理学 I	講義	17.2	25.9	8.6		44.8	3.4	58

昆虫生態学 I	講義	31.8	4.5	15.9		45.5	2.3	44
昆虫生理学	講義	63.3	3.3	10.0		23.3		30
熱帯農業生態学	講義	46.7	13.3	16.7		23.3		30
真菌科学	講義	52.9	29.4			14.7	2.9	34
資源生物科学専門外書講義 I	講義	72.0	14.6	3.7		6.1	3.7	82
資源生物科学専門外書講義 II	講義	63.9	13.1	8.2		13.1	1.6	61
資源生物科学実験及び実験法 I	講義・実験	75.0	16.3	6.5		2.2		92
資源生物科学実験及び実験法 II	講義・実験	50.6	28.1	15.7		5.6		89
作物学 II	講義	24.1	17.2	17.2		41.4		29
育種学 II	講義	32.1	7.1	14.3		35.7	10.7	28
花卉園芸学	講義	18.2	18.2	20.0		40.0	3.6	55
果樹園芸学 II	講義	20.9	18.6	25.6		34.9		43
栽培システム学 II	講義	35.1	16.2	24.3		18.9	5.4	37
動物機能開発学	講義	54.2	25.0			20.8		24
海洋生物生理学	講義	46.7	16.7	23.3		13.3		30
海洋微生物学 II	講義	26.1	30.4	26.1		17.4		23
海洋環境微生物学	講義	26.5	20.6	26.5		23.5	2.9	34
海洋生物機能学	講義	61.8	5.9	2.9		29.4		34
雑草学 II	講義	33.3	21.2	24.2		18.2	3.0	33
昆虫生態学 II	講義	27.3	9.1	4.5		54.5	4.5	44
生態制御学	講義	35.3	23.5	5.9		29.4	5.9	17
遺伝学 II	講義			56.3		43.8		16
品質設計開発学	講義	30.6	2.8			61.1	5.6	36
品質評価学	講義	40.0	12.0	16.0		32.0		25
動物栄養機能学	講義	33.3	3.3	20.0		40.0	3.3	30
動物環境生理学	講義	5.9	17.6	29.4		47.1		17
海洋生物環境学 II	講義	39.1	37.0	8.7		10.9	4.3	46
植物病理学 II	講義	24.0	16.0	12.0		48.0		25
植物環境ストレス学	講義	50.0	8.3	12.5		29.2		24
土壌学 II	講義	23.5	17.6	11.8		35.3	11.8	17
植物調査法と実習	講義・実習		100.0			0.0		1
海洋生物科学技術論と実習 I	講義・実習	12.5				0.0	87.5	8
海洋生物科学技術論と実習 II	講義・実習	25.0				0.0	75.0	8
海洋生物科学技術論と実習 III	講義・実習	20.0				80.0		10
畜産技術論と実習 I	講義・実習	57.1				14.3	28.6	7
農業科学	講義	34.9	4.7	16.3		41.9	2.3	43
畜産技術論と実習 II	講義・実習	75.0				12.5	12.5	16
作物科学演習	演習	100.0				0.0		8
園芸科学演習	演習	100.0				0.0		8
耕地生態科学演習	演習	100.0				0.0		5
品質科学演習	演習	100.0				0.0		7
生産管理科学演習	演習	100.0				0.0		2
応用動物科学演習 I	演習	100.0				0.0		13
応用動物科学演習 II	演習	100.0				0.0		13

海洋生物資源学演習	演習	85.7	14.3			0.0		7
海洋微生物学演習	演習	100.0				0.0		8
海洋生物生産学演習	演習	100.0				0.0		8
資源植物科学演習	演習	100.0				0.0		4
植物保護科学演習	演習	100.0				0.0		9
生産生態科学演習	演習	84.6	7.7			7.7		13
生態情報開発学	講義	37.5	20.0	25.0		17.5		40
栽培技術論と実習 II	講義・実習	69.6	2.2			2.2	26.1	46
海洋生物科学技術論と実習 IV	講義・実習	12.5				0.0	87.5	8
海洋生物環境学 I	講義	20.6	32.4	19.1		27.9		68
応用生命科学入門 III	講義	100.0				0.0		1
応用生命科学入門 IV	講義	100.0				0.0		1
細胞生物学概論	講義	5.9	11.8	11.8		70.6		17
生化学 I	講義	28.6	14.3			57.1		7
生化学 II	講義			14.3		85.7		7
有機構造解析学	講義					100.0		1
生物理化学 I	講義			20.0		80.0		5
生物理化学 II	講義	46.4	5.4	17.9		30.4		56
分析化学	講義	40.6	13.0	15.9		30.4		69
有機反応機構論 I	講義	12.5	50.0	12.5		25.0		8
有機反応機構論 II	講義			33.3		66.7		3
生物有機化学 I	講義	41.0	14.8	26.2		18.0		61
生物有機化学 II	講義	34.4	32.8	16.4		16.4		61
生物有機化学 III	講義	20.0	24.0	26.0		28.0	2.0	50
一般生体高分子化学	講義	58.2	21.5	10.1		10.1		79
生体高分子構造論	講義	30.2	30.2	22.6		17.0		53
構造生物学	講義	44.0	24.0	14.0		16.0	2.0	50
応用微生物学 I	講義					100.0		4
応用微生物学 II	講義	72.9	13.6	1.7		11.9		59
応用微生物学 III	講義	71.7	9.4	9.4		9.4		53
応用微生物学 IV	講義	52.4	9.5	4.8		33.3		21
植物栄養学	講義	42.5	27.4	16.8		10.6	2.7	113
植物生化学 I	講義	22.6	24.5	20.8		30.2	1.9	53
分子生物学 I	講義	48.3	17.2	27.6		6.9		58
分子生物学 II	講義	36.2	17.2	29.3		12.1	5.2	58
分子細胞生物学 I	講義	23.2	21.4	16.1		35.7	3.6	56
分子細胞生物学 II	講義	32.7	30.6	12.2		18.4	6.1	49
醸造食品学概論	講義	40.2	13.0	6.5		28.3	12.0	92
専門外国書講読	講義	82.1	16.1			1.8		56
産業微生物学	講義	59.3	13.6	5.1		22.0		59
分析化学実験	実験	64.8	35.2			0.0		54
生化学実験	実験	44.4	42.6	9.3		3.7		54
分子生物学実験	実験	60.8	19.6	9.8		9.8		51
植物生化学実験	実験	56.4	32.7	5.5		5.5		55

応用微生物学実験	実験	81.1	11.3			7.5		53
有機化学実験	実験	83.0	5.7	1.9		9.4		53
生物物理化学実験	実験	74.1	22.2	1.9		1.9		54
応用生命科学演習 I	演習	90.0	8.0	2.0		0.0		50
応用生命科学演習 II	演習	91.3	2.2	2.2		4.3		46
植物生化学 II	講義	28.3	18.9	9.4		43.4		53
地域環境工学概論 II	講義		25.0	50.0		25.0		4
応用数学	講義	20.0	10.0	30.0		40.0		10
環境動態学	講義	35.7	16.7	26.2		21.4		42
測量学	講義	50.0	33.3	10.0		6.7		30
応用力学	講義	40.0		40.0		20.0		5
土木材料学	講義	25.0	12.5	25.0		37.5		8
水理学	講義	8.3	8.3	66.7		16.7		12
構造解析学	講義	77.4	16.1	6.5		0.0		31
土壌物理学	講義		9.1	18.2		72.7		11
環境水文学	講義	60.5	31.6	5.3		2.6		38
地域整備開発施設学	講義	76.5	8.8	5.9		8.8		34
灌漑排水学	講義	72.9	14.6	8.3		4.2		48
農村計画学	講義	37.5	17.9	10.7		28.6	5.4	56
農地整備学	講義	33.3	17.5	22.2		25.4	1.6	63
水資源利用学	講義	25.0	23.3	33.3		13.3	5.0	60
利水システム工学	講義	20.8	33.3	33.3		8.3	4.2	24
国土・地域計画	講義	47.1	17.6			35.3		17
材料力学	講義	42.9		14.3		42.9		7
生物センシング工学	講義	21.1	15.8	10.5		47.4	5.3	19
振動学	講義	28.6				71.4		7
熱力学及び伝熱工学	講義	40.0				60.0		5
数理計画法	講義	33.3	16.7			50.0		6
農業システム工学	講義	39.4	6.1	30.3		21.2	3.0	33
フィールドロボティクス	講義	37.0	29.6	3.7		29.6		27
農産物性科学	講義	8.1	24.3	29.7		35.1	2.7	37
制御工学	講義	45.5	18.2	18.2		18.2		33
機械設計	講義	80.8	7.7	3.8		7.7		26
電気・電子工学	講義	27.8	36.1	22.2		13.9		36
Intro. Bio-Sys. Eng.	講義	35.3	29.4	23.5		11.8		17
情報処理学及び演習 II	講義・演習	33.3		33.3		33.3		3
土木材料・環境地盤工学実験	実験	78.3	4.3	4.3		13.0		23
水理学実験	実験	95.2				4.8		21
土壌物理学・水環境工学実験	実験	54.2	16.7	29.2		0.0		24
測量法及び実習	講義・実習	89.3	7.1	3.6		0.0		28
施設機能工学演習	演習	87.5	6.3			6.3		16
計算水理学演習	演習	53.8	23.1	7.7		15.4		13
生物生産工学実験 I	実験	45.5	36.4			18.2		22
生物生産工学実験 II	実験	66.7	26.7			6.7		15

製図（CAD）演習	演習	87.5	12.5			0.0		8
地域環境工学実習	実習					100.0		3
灌漑排水学演習	演習	85.7				14.3		7
農村整備計画演習	演習	80.0	20.0			0.0		5
技術英語	講義	55.6	27.8	11.1		2.8	2.8	36
生物生産機械学	講義					100.0		1
工業数学	講義					100.0		6
農業農村整備政策論	講義	55.8	14.0	4.7		18.6	7.0	43
調査研究方法実習 I	実習	100.0				0.0		2
調査研究方法実習 II	実習	100.0				0.0		1
食料・環境経済学概論 I	講義			50.0		50.0		2
食料環境基礎社会・経済論	講義	16.7	16.7	33.3		33.3		6
社会経済史	講義	20.0	60.0	10.0		10.0		10
農林統計利用実習	実習	59.5	14.3	4.8		21.4		42
農業発展論	講義	23.3	10.0	6.7		60.0		30
国際農林業概論	講義	30.4	21.7	4.3		43.5		23
農業会計学基礎実習	実習	37.5				62.5		16
農業食料組織経営学	講義	6.9	17.2	34.5		37.9	3.4	29
農業経営情報会計学	講義	33.3	19.0	9.5		38.1		21
資源環境経済学	講義	44.9	10.2	20.4		22.4	2.0	49
食料・環境政策学	講義	51.3	10.3	10.3		28.2		39
森林政策学	講義	37.8	24.3	18.9		16.2	2.7	37
開発ミクロ経済学	講義	23.4	14.9	12.8		48.9		47
農業・農村史	講義	59.5	2.7			32.4	5.4	37
農学原論	講義	17.9	53.6	14.3		14.3		28
農企業問題特論	講義	82.1		3.6		10.7	3.6	28
アグリビジネス論	講義	35.7	7.1			57.1		14
農業資金会計論	講義	81.3				9.4	9.4	32
資源環境分析学	講義	40.0	10.0	10.0		30.0	10.0	10
農林統計学	講義					50.0	50.0	2
食料・農業経済情報論	講義	17.9	7.7	5.1		59.0	10.3	39
農村社会学	講義	8.0	56.0	8.0		24.0	4.0	25
食・農学倫理	講義	45.0		5.0		40.0	10.0	20
専門外国書講義 II	講義	75.0				25.0		4
食料・環境経済学特別講義 I	講義	21.1	15.8	15.8		47.4		19
農業食料組織経営学演習 I	演習	100.0				0.0		6
農業食料組織経営学演習 II	演習	85.7		14.3		0.0		7
農業食料組織経営学演習 III	演習	88.9				11.1		9
農業経営情報会計学演習 I	演習	91.7				8.3		12
農業経営情報会計学演習 II	演習	100.0				0.0		11
農業経営情報会計学演習 III	演習	100.0				0.0		11
資源環境経済学演習 I	演習	100.0				0.0		11
資源環境経済学演習 II	演習	87.5				12.5		8
資源環境経済学演習 III	演習	75.0	25.0			0.0		8

食料・環境政策学演習 I	演習	100.0				0.0		6
食料・環境政策学演習 II	演習	100.0				0.0		7
食料・環境政策学演習 III	演習	85.7				14.3		7
森林経済政策学演習 I	演習	84.6				15.4		13
森林経済政策学演習 II	演習	100.0				0.0		6
森林経済政策学演習 III	演習	83.3				16.7		6
国際農村発展論演習 I	演習	85.7		14.3		0.0		7
国際農村発展論演習 II	演習	100.0				0.0		2
国際農村発展論演習 III	演習	100.0				0.0		1
農業・農村史演習 I	演習	81.3	12.5	6.3		0.0		16
農業・農村史演習 II	演習	50.0	50.0			0.0		6
農業・農村史演習 III	演習	62.5	12.5			25.0		8
農学原論演習 I	演習	45.5	54.5			0.0		11
農学原論演習 II	演習	75.0		16.7		8.3		12
農学原論演習 III	演習	58.3	33.3			8.3		12
農林経営経済調査実習	実習	91.3				8.7		23
食料・環境経済入門	講義					100.0		2
経済原論 I (ミクロ経済学)	講義	6.3		12.5		75.0	6.3	16
経済原論 II (社会経済学)	講義		25.0			75.0		4
経済原論 III (マクロ経済学)	講義	10.0	10.0	10.0		70.0		10
専門外国書講義 I (英語 I)	講義	62.1	13.8	3.4		17.2	3.4	29
専門外国書講義 III (英語 II)	講義	50.0				35.7	14.3	14
農業経営の未来戦略	講義	57.7	11.5	3.8		23.1	3.8	26
森林経済学	講義	14.3	7.1	12.5		62.5	3.6	56
森林科学 I	講義	30.0	10.0	10.0		50.0		10
森林科学 II	講義	14.3		28.6		57.1		14
森林科学 III	講義		12.5	12.5		75.0		8
森林科学 IV	講義			12.5		87.5		8
国際森林資源論	講義	67.1	3.9	2.6		23.7	2.6	76
森林計画学	講義	25.0	10.7	7.1		53.6	3.6	28
造園学	講義	32.0	24.0	22.0		20.0	2.0	50
緑地植物学	講義	55.0	10.0	5.0		30.0		20
森林生産学	講義	54.8	3.2	3.2		38.7		31
樹木生理学	講義	21.7	4.3			73.9		23
森林育成学	講義	13.6	13.6	22.7		50.0		22
森林植物学	講義	51.7	17.2	6.9		24.1		29
森林資源管理学	講義	35.5	6.5	3.2		51.6	3.2	31
森林環境学	講義	5.3	21.1	36.8		36.8		19
森林生態学	講義	60.0	13.3	6.7		20.0		15
群集生態学	講義	13.8	17.2	17.2		51.7		29
保全遺伝学	講義	31.7	14.6	29.3		19.5	4.9	41
野生動物保全学	講義	12.0	34.0	8.0		44.0	2.0	50
熱帯林環境学	講義	75.6	4.4	2.2		15.6	2.2	45
熱帯森林資源学	講義	50.0	21.9	3.1		18.8	6.3	32

樹木細胞生理学	講義	27.1	8.3	20.8		41.7	2.1	48
細胞壁形成論	講義	19.4	19.4	27.8		33.3		36
砂防学 I	講義	41.8	34.3	14.9		9.0		67
砂防学 II	講義	48.3	10.3	20.7		20.7		29
森林水文学	講義	76.2	14.3	4.8		4.8		42
生物材料物性学	講義	38.9	16.7			44.4		18
木構造学	講義	37.5	12.5			50.0		8
木材加工学 I	講義	39.1	26.1	8.7		21.7	4.3	23
木材加工学 II	講義	50.0	16.7	8.3		16.7	8.3	12
セルロース化学	講義	45.8	18.8	12.5		22.9		48
リグニン化学	講義	13.3	6.7	13.3		60.0	6.7	15
森林生化学 I	講義	21.7	17.4	26.1		34.8		23
森林生化学 II	講義	66.7	8.3	8.3		16.7		12
高分子合成化学	講義	62.5	12.5	18.8		6.3		16
バイオマス複合材料化学	講義	89.3				10.7		28
生物材料物理化学	講義	75.0	8.3			16.7		12
生物材料構造学	講義	26.7	26.7	20.0		26.7		15
専門外国書講読 I	講義	91.2	5.9			2.9		34
専門外国書講読 II	講義	92.9	5.4			1.8		56
コンピュータ利用と森林科学	講義	41.2	11.8	29.4		17.6		17
森林法律論	講義	21.1	15.8	5.3		47.4	10.5	19
緑地計画論	講義	69.4	5.6	2.8		22.2		36
森林有機化学	講義	64.7	23.5	5.9		0.0	5.9	17
高分子物性学	講義	76.2				23.8		21
バイオマスエネルギー	講義	14.3	17.9	10.7		50.0	7.1	28
生物圏情報学 I	講義	42.3	26.9	11.5		15.4	3.8	78
生物圏情報学 II	講義	22.4	24.1	17.2		32.8	3.4	58
木材保存学	講義	26.7	20.0	20.0		33.3		15
木質材料学	講義	30.8	15.4	23.1		30.8		13
住環境学	講義	40.0	30.0	10.0		10.0	10.0	20
応用生態学実験及び実験法	講義・実験	71.4	14.3	14.3		0.0		14
森林科学特別科目	講義	100.0				0.0		4
森林科学実習 I	実習	66.7				33.3		3
森林分子生物学	講義	77.8	11.1	11.1		0.0		9
森林科学実習 II	実習	66.7				33.3		3
森林科学実習 III	実習	66.7				33.3		3
森林科学実習 IV	実習		33.3	33.3		33.3		3
森林総合実習及び実習法	講義・実習	58.7	19.6			21.7		46
森林生物学実験及び実験法	講義・実験	63.0	17.4	4.3		15.2		46
森林物理学実験及び実験法	講義・実験	87.2	5.1			7.7		39
森林基礎化学実験及び実験法	講義・実験	82.9	2.4	4.9		9.8		41
森林利用学実習及び実習法	講義・実習	100.0				0.0		14
基礎生態学実験及び実験法	講義・実験	70.8	20.8			8.3		24
樹木の超微形態観察及び観察法	講義・実習	88.9	11.1			0.0		9

森林水文・砂防学実験及び実験法	講義・実験	93.3	6.7			0.0		15
木材工学実験及び実験法	講義・実験	88.9	11.1			0.0		9
木材加工学実験及び実験法	講義・実験	100.0				0.0		12
バイオマス化学実験及び実験法 I	講義・実験	55.0	25.0	10.0		10.0		20
バイオマス化学実験及び実験法 II	講義・実験	85.0	10.0	5.0		0.0		20
造園学実習 I	実習	66.7				33.3		3
造園学実習 II	実習	100.0				0.0		4
建築設計・製図実習	実習	76.9				23.1		13
森林科学演習	演習	94.5	1.8	1.8		1.8		55
研究林実習 I	実習	50.0				50.0		2
研究林実習 II	実習	100.0				0.0		7
研究林実習 III	実習	64.5				0.0	35.5	31
研究林実習 IV	実習	60.0				40.0		20
特別森林実習 I	実習				100.0	0.0		7
特別森林実習 II	実習				100.0	0.0		4
森林科学概論 I	講義					100.0		1
森林科学概論 II	講義					100.0		3
森林基礎科学 A	講義	20.0	40.0			40.0		5
森林基礎科学 B	講義	33.3				66.7		3
木材情報学	講義	37.5	6.3	12.5		18.8	25.0	16
食品有機化学 I	講義		33.3			66.7		3
食品有機化学 II	講義	28.6				71.4		7
食品物理化学 I	講義	12.0	4.0	12.0		68.0	4.0	25
食品基礎分子生物学 I	講義	9.1		18.2		72.7		11
食品有機化学 III	講義	33.3				66.7		3
食品物理化学 II	講義		27.3	18.2		54.5		11
食品生理学	講義	25.6	20.5	30.8		23.1		39
酵素化学	講義	50.0	13.6	20.5		15.9		44
天然物化学	講義	10.5	39.5	18.4		31.6		38
栄養化学	講義	15.2	17.4	19.6		47.8		46
食品工学	講義	19.6	12.5	21.4		44.6	1.8	56
食品機能学 I	講義	51.1	19.1	14.9		14.9		47
微生物遺伝学	講義	19.0	11.9	23.8		45.2		42
食品分子生物学 II	講義	16.1	29.0	12.9		35.5	6.5	31
微生物生産学	講義	30.0	22.0	8.0		40.0		50
食品化学	講義	39.3	26.8	19.6		14.3		56
食品安全学 I	講義	30.8	11.5	7.7		50.0		26
食品安全学 II	講義	13.8	13.8	27.6		37.9	6.9	29
食品生物科学演習	演習	79.5	4.5			15.9		44
食品機能学 II	講義	61.0	22.0	9.8		7.3		41
食品工業論	講義	61.4	2.9			34.3	1.4	70
食品有機化学実験及び実験法	実験	72.2	16.7	8.3		2.8		36
食品生化学実験及び実験法	実験	54.1	40.5	5.4		0.0		37
酵素化学実験及び実験法	実験	63.9	22.2	13.9		0.0		36

食品化学実験及び実験法	実験	62.2	32.4	5.4		0.0		37
食品工学実験及び実験法	実験	34.2	34.2	13.2		18.4		38
栄養化学実験及び実験法	実験	33.3	50.0	16.7		0.0		36
食品生理学実験及び実験法	実験	57.1	20.0	20.0		2.9		35
応用微生物学実験及び実験法	実験	50.0	7.9	26.3		15.8		38
分子生物学実験及び実験法	実験	40.0	34.3	2.9		22.9		35
食品分析化学	講義	16.7		33.3		50.0		6
基礎生化学 I	講義	50.0	50.0			0.0		2
基礎生化学 II	講義		20.0	40.0		40.0		5
食品基礎分子生物学 II	講義	10.0	10.0	10.0		70.0		10
基礎微生物学	講義	61.0	10.2	11.9		16.9		59
食品分子生物学 I	講義	40.0	20.0	20.0		20.0		5

〈表 5-2〉 平成 28 年度 成績評価別分布表 (課題研究除く・平成 27 年度以降入学者)

科目名	科目区分	A+ (%)	A (%)	B (%)	C (%)	D (%)	合格 (%)	不合格 (%)	履修取 消(%)	履修 者数
遺伝学 I	講義		27.3	9.1	27.3			18.2	18.2	11
海洋環境微生物学 II	講義			11.1	44.4	44.4		0.0		9
農学概論 I	講義		26.8	61.7	9.6	0.6		1.3		313
農学概論 II	講義		4.7	23.7	30.4	14.4		16.7	10.1	257
細胞生物学 I	講義	6.7	17.1	13.3	19.0	12.4		31.4		105
細胞生物学 II	講義	14.3	32.7	24.5	17.3	1.0		10.2		98
細胞生物学 III	講義	1.1	12.1	23.1	23.1	11.0		29.7		91
資源生物科学基礎	講義	3.3	19.0	29.8	28.1	7.4		12.4		121
大気環境学	講義		36.0	43.2	8.0	1.6		8.0	3.2	125
生物統計学	講義	4.0	17.0	17.0	27.0	15.0		18.0	2.0	100
資源生物科学概論 A	講義		12.5	35.4	30.2	7.3		12.5	2.1	96
資源生物科学概論 B	講義	2.0	16.8	18.8	30.7	17.8		10.9	3.0	101
生態学	講義	10.7	36.9	25.2	11.7	7.8		6.8	1.0	103
動物生理学	講義	1.1	12.4	15.7	32.6	5.6		32.6		89
微生物学	講義		16.9	14.5	21.7	13.3		33.7		83
植物生理学 I	講義		17.7	37.5	15.6	19.8		9.4		96
資源生物科学基礎実験	実験	20.0	44.2	24.2	4.2	5.3		2.1		95
土壌学 I	講義	1.1	7.9	23.6	25.8	10.1		28.1	3.4	89
海洋動物学	講義	40.3	31.9	11.1	2.8	2.8		9.7	1.4	72
植物生理学 II	講義	100.0						0.0		1
作物学 I	講義		18.2	27.3	18.2	18.2		18.2		11
蔬菜園芸学	講義				60.0	40.0		0.0		5
果樹園芸学 I	講義		33.3		33.3	33.3		0.0		3
植物生産管理学	講義		75.0	25.0				0.0		4
栽培システム学 I	講義	100.0						0.0		1
品質科学	講義		12.7	5.5	16.4	43.6		21.8		55

動物栄養学	講義		25.0	33.3	25.0	16.7		0.0		12
資源動物生産学	講義		50.0	33.3				16.7		6
海洋生物生態学	講義					50.0		50.0		2
海洋微生物学 I	講義							100.0		2
海洋生物資源利用学	講義			15.4	23.1	30.8		23.1	7.7	13
雑草学 I	講義		25.0	25.0	50.0			0.0		4
植物病理学 I	講義							100.0		2
昆虫生態学 I	講義	5.3	5.3	42.1	15.8	21.1		10.5		19
昆虫生理学	講義	33.3	46.7	6.7				0.0	13.3	15
熱帯農業生態学	講義		33.3	66.7				0.0		6
真菌科学	講義			40.0				60.0		5
作物学 II	講義					100.0		0.0		1
育種学 II	講義				100.0			0.0		1
花卉園芸学	講義		50.0			50.0		0.0		2
果樹園芸学 II	講義			50.0				50.0		2
栽培システム学 II	講義	50.0	50.0					0.0		2
動物機能開発学	講義				100.0			0.0		1
海洋環境微生物学	講義		33.3	33.3	33.3			0.0		3
海洋生物機能学	講義	14.3		28.6				28.6	28.6	7
雑草学 II	講義		9.1	27.3	27.3	18.2		18.2		11
昆虫生態学 II	講義		29.4	17.6	5.9			47.1		17
生態制御学	講義					100.0		0.0		1
遺伝学 II	講義					66.7		33.3		6
品質設計開発学	講義							60.0	40.0	5
品質評価学	講義			33.3				66.7		3
動物栄養機能学	講義				50.0			50.0		2
動物環境生理学	講義		13.3	6.7	33.3	13.3		33.3		15
海洋生物環境学 II	講義			75.0		25.0		0.0		4
植物環境ストレス学	講義				50.0	50.0		0.0		2
土壌学 II	講義		21.1	47.4	21.1			5.3	5.3	19
栽培技術論と実習 I	講義・実習	2.4	31.0	39.3	25.0	1.2		1.2		84
植物調査法と実習	講義・実習		36.4	36.4	9.1			18.2		11
海洋生物科学技術論と実習 I	講義・実習	29.0	22.6					0.0	48.4	31
海洋生物科学技術論と実習 II	講義・実習		55.6					7.4	37.0	27
海洋生物科学技術論と実習 III	講義・実習		26.7	6.7				66.7		15
畜産技術論と実習 I	講義・実習	65.7						2.9	31.4	35
農薬科学	講義		28.0	12.0	16.0			36.0	8.0	25
生態情報開発学	講義	6.7	40.0	13.3	13.3	26.7		0.0		15
海洋生物科学技術論と実習 IV	講義・実習		29.0					0.0	71.0	31
海洋生物環境学 I	講義		6.7	26.7	40.0			13.3	13.3	15
応用生命科学入門 I	講義	6.8	32.2	20.3	13.6	5.1		20.3	1.7	59
応用生命科学入門 II	講義	14.3	58.9	17.9	7.1			1.8		56
応用生命科学入門 III	講義	3.6	8.9	25.0	28.6	12.5		19.6	1.8	56
応用生命科学入門 IV	講義		22.6	24.5	15.1	18.9		18.9		53

細胞生物学概論	講義		16.7	38.9	25.6	11.1		7.8		90
生化学 I	講義	5.0	53.3	23.3	3.3	1.7		11.7	1.7	60
生化学 II	講義	1.9	20.4	42.6	11.1	9.3		14.8		54
有機構造解析学	講義		7.3	25.5	23.6	25.5		16.4	1.8	55
生物化学 I	講義	29.1	23.6	9.1	7.3	7.3		20.0	3.6	55
有機反応機構論 I	講義	5.6	11.1	24.1	24.1	3.7		29.6	1.9	54
有機反応機構論 II	講義	5.7	20.8	28.3	9.4	9.4		24.5	1.9	53
生物有機化学 II	講義			20.0		60.0		0.0	20.0	5
一般生体高分子化学	講義	100.0						0.0		1
応用微生物学 I	講義		11.5	19.2	26.9	28.8		11.5	1.9	52
植物栄養学	講義	50.0						50.0		2
分子細胞生物学 I	講義	25.0		25.0	25.0			25.0		4
醸造食品学概論	講義		50.0					0.0	50.0	2
産業微生物学	講義				50.0	50.0		0.0		2
植物生化学 II	講義				100.0			0.0		1
地域環境工学概論 I	講義	2.2	53.3	26.7	8.9	2.2		6.7		45
地域環境工学概論 II	講義		2.4	23.8	40.5	21.4		11.9		42
応用数学	講義	4.9	46.9	17.3	13.6	9.9		4.9	2.5	81
環境動態学	講義	25.0	8.3	25.0	8.3	25.0		8.3		12
応用力学	講義	5.0	20.0	27.5	30.0	10.0		7.5		40
土木材料学	講義	5.6	8.3	8.3	5.6	11.1		61.1		36
水理学	講義		22.0	31.7	29.3	2.4		14.6		41
土壤物理学	講義	2.4	19.5	26.8	12.2	9.8		26.8	2.4	41
地域整備開発施設学	講義							100.0		1
農村計画学	講義							100.0		1
農地整備学	講義			30.0	20.0	30.0		20.0		10
水資源利用学	講義			50.0				50.0		2
材料力学	講義	5.0	7.5	25.0	12.5	15.0		35.0		40
振動学	講義	5.9	35.3	8.8	8.8	20.6		20.6		34
熱力学及び伝熱工学	講義	27.8	11.1	5.6	19.4	16.7		19.4		36
数理計画法	講義	5.4	18.9	24.3	13.5	8.1		27.0	2.7	37
情報処理学及び演習 I	講義・演習		8.3	30.6	22.2	19.4		19.4		36
情報処理学及び演習 II	講義・演習	17.4	34.8	17.4	13.0	8.7		8.7		23
生物生産機械学	講義		9.7	12.9	16.1	22.6		29.0	9.7	31
工業数学	講義			7.1	10.7	17.9		57.1	7.1	28
地域環境工学概論 III	講義	37.5	17.5	7.5	17.5	7.5		5.0	7.5	40
調査研究方法実習 I	実習		88.6	2.9				8.6		35
調査研究方法実習 II	実習	14.7	79.4					5.9		34
食料・環境経済学概論 I	講義	2.6	23.7	42.1	23.7			7.9		38
食料環境基礎社会・経済論	講義	2.6	25.6	38.5	17.9			10.3	5.1	39
社会経済史	講義		28.6	28.6	14.3	4.8		19.0	4.8	21
農林統計利用実習	実習							100.0		1
農業発展論	講義	1.9	44.2	21.2	17.3	3.8		11.5		52
国際農林業概論	講義	10.5	44.7	26.3	10.5			5.3	2.6	38

農業会計学基礎実習	実習	38.5	19.2	3.8	3.8	3.8		30.8		26
農業食料組織経営学	講義		6.7	20.0	20.0	13.3		40.0		15
農業経営情報会計学	講義	15.8	57.9	5.3	5.3			15.8		19
資源環境経済学	講義		50.0		50.0			0.0		2
食料・環境政策学	講義		46.7	13.3	20.0			13.3	6.7	15
森林政策学	講義		100.0					0.0		1
開発ミクロ経済学	講義		50.0					0.0	50.0	2
農業・農村史	講義		100.0					0.0		5
農学原論	講義		5.9	64.7	17.6	5.9		5.9		17
アグリビジネス論	講義	20.8	45.8	12.5	10.4	2.1		4.2	4.2	48
資源環境分析学	講義	4.5	22.7	13.6	13.6	13.6		27.3	4.5	22
農林統計学	講義		32.1		10.7	3.6		39.3	14.3	28
食料・農業経済情報論	講義		32.3	12.9	9.7	12.9		32.3		31
農村社会学	講義		2.3	65.1	23.3			7.0	2.3	43
専門外国書講義 II	講義		100.0					0.0		1
食料・環境経済入門	講義		70.3					24.3	5.4	37
経済原論 I (ミクロ経済学)	講義		7.9	13.2	18.4	21.1		39.5		38
経済原論 II (社会経済学)	講義		18.2	6.1	18.2	21.2		33.3	3.0	33
経済原論 III (マクロ経済学)	講義	3.0	15.2	21.2	12.1	12.1		36.4		33
専門外国書講義 I (英語 I)	講義			100.0				0.0		1
専門外国書講義 III (英語 II)	講義		33.3		33.3			33.3		3
農業経営の未来戦略	講義		63.2	26.3		5.3		0.0	5.3	19
森林科学 I	講義	28.8	40.7	16.9	6.8	1.7		5.1		59
森林科学 II	講義	1.6	16.4	41.0	21.3	9.8		9.8		61
森林科学 III	講義	25.0	37.5	8.9	17.9	5.4		5.4		56
森林科学 IV	講義	1.7	11.7	40.0	23.3	11.7		10.0	1.7	60
国際森林資源論	講義	78.6	7.1					7.1	7.1	14
森林計画学	講義		46.4	17.9	3.6	3.6		21.4	7.1	28
造園学	講義		10.0	36.7	23.3	20.0		3.3	6.7	30
緑地植物学	講義	100.0						0.0		1
樹木生理学	講義	21.4	9.5	16.7	14.3	7.1		26.2	4.8	42
森林育成学	講義		18.2	9.1	63.6			9.1		11
森林植物学	講義		37.5	25.0	25.0			12.5		8
森林資源管理学	講義		100.0					0.0		5
森林環境学	講義			11.4	45.7	22.9		14.3	5.7	35
森林生態学	講義		41.2	35.3	11.8			11.8		17
群集生態学	講義		25.0	25.0		25.0		0.0	25.0	4
保全遺伝学	講義	100.0						0.0		2
野生動物保全学	講義		2.0	12.2	49.0	8.2		28.6		49
熱帯林環境学	講義		47.4	21.1				21.1	10.5	19
熱帯森林資源学	講義	15.8	63.2	21.1				0.0		19
樹木細胞生理学	講義	12.0	16.0	8.0	8.0	32.0		24.0		25
細胞壁形成論	講義			100.0				0.0		1
砂防学 I	講義		33.3	33.3				33.3		3

砂防学 II	講義		50.0	50.0				0.0		4
森林水文学	講義		100.0					0.0		14
木材加工学 I	講義		72.7	9.1	9.1	9.1		0.0		11
木材加工学 II	講義		37.5	37.5	12.5			12.5		8
セルロース化学	講義	10.0	20.0	20.0	20.0			20.0	10.0	10
リグニン化学	講義	3.8	11.5	11.5	26.9	15.4		30.8		26
森林生化学 I	講義	7.1	14.3	14.3	28.6	14.3		21.4		14
森林生化学 II	講義		35.7	28.6	21.4	14.3		0.0		14
高分子合成化学	講義		26.7	26.7	20.0	6.7		13.3	6.7	15
生物材料物理化学	講義		20.0	20.0	40.0			20.0		5
緑地計画論	講義	22.2	44.4					11.1	22.2	9
高分子物性学	講義		80.0	20.0				0.0		5
生物圏情報学 I	講義		28.6	42.9	28.6			0.0		7
生物圏情報学 II	講義		11.8	29.4	47.1			5.9	5.9	17
木材保存学	講義		50.0					0.0	50.0	2
住環境学	講義		33.3			33.3		33.3		3
森林科学実習 I	実習	36.8	43.9	10.5	1.8			7.0		57
森林科学実習 II	実習	14.5	50.9	18.2	7.3	1.8		7.3		55
森林科学実習 III	実習	58.8	7.8	19.6	11.8			2.0		51
森林科学実習 IV	実習		20.8	56.6	11.3	5.7		5.7		53
基礎生態学実験及び実験法	講義・実験			100.0				0.0		1
造園学実習 I	実習		100.0					0.0		1
研究林実習 I	実習	95.5		4.5				0.0		22
研究林実習 IV	実習							100.0		2
特別森林実習 I	実習						100.0	0.0		3
森林科学概論 I	講義	1.7	78.0	8.5	6.8	5.1		0.0		59
森林科学概論 II	講義	3.6	46.4	30.4	10.7	5.4		3.6		56
森林基礎科学 A	講義	1.6	16.4	23.0	23.0	8.2		26.2	1.6	61
森林基礎科学 B	講義	11.8	21.6	13.7	13.7	13.7		25.5		51
食品有機化学 I	講義	2.4	22.0	22.0	12.2	9.8		31.7		41
食品有機化学 II	講義		5.3	21.1	42.1	15.8		15.8		38
食品物理化学 I	講義	15.9	14.6	22.0	13.4	9.8		24.4		82
食品基礎分子生物学 I	講義	17.1	26.8	29.3	4.9	14.6		7.3		41
食品生物科学概論	講義	2.8	50.0	30.6	11.1	2.8		2.8		36
食品有機化学 III	講義		7.3	17.1	46.3	2.4		26.8		41
食品物理化学 II	講義		5.1	25.6	12.8	10.3		46.2		39
食品生理学	講義		2.7	29.7	24.3	8.1		35.1		37
酵素化学	講義	3.1	21.9	17.2	18.8	25.0		14.1		64
栄養化学	講義		11.8	17.6	21.6	13.7		27.5	7.8	51
食品機能学 I	講義		100.0					0.0		1
微生物遺伝学	講義							100.0		1
微生物生産学	講義			20.0	40.0			40.0		5
食品化学	講義		50.0					0.0	50.0	2
食品安全学 I	講義	37.7	24.6	11.5	4.9	3.3		18.0		61

食品機能学 II	講義			100.0				0.0		1
食品工業論	講義		100.0					0.0		1
食品分析化学	講義	4.8	14.3	26.2	26.2	9.5		19.0		42
基礎生化学 I	講義	9.5	28.6	35.7	16.7			7.1	2.4	42
基礎生化学 II	講義	5.4	13.5	37.8	16.2	13.5		13.5		37
食品基礎分子生物学 II	講義	25.0	30.0	10.0	7.5			25.0	2.5	40
基礎微生物学	講義	7.1	21.4	9.5	21.4	9.5		28.6	2.4	42
食品分子生物学 I	講義	29.7	8.1	10.8	2.7	10.8		37.8		37
特別実地研修	実習						100.0	0.0		1